

【平成29年11月14日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第5回）要点録】

江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第5回）要点録	
開催日時	平成29年11月14日（火）13時30分～15時30分
開催場所	江田島市役所 本庁 4階会議室
出席者	<p>■有識者会議委員（敬称略 所属団体については就任時の状況）</p> <p>濱中 繁美 江田島市自治会連合会 上村 千景 江田島市PTA連合会 三上 千尋 江田島市認定こども園保護者会 清水 昭彦 田舎暮らしを楽しもう会 村上 浩司 江田島市農業委員会 平田 圭司 江田島市商工会 伊藤 富美雄 江田島市観光協会 市村 匠 公立大学法人県立広島大学（座長） 足立 真司 江田島市金融懇談会（広島銀行） 寺崎 雅浩 広島県健康福祉局子育て・少子化対策課 上迫 滋 広島県CCMO（県政コミュニケーション・マーケティング総括監）</p> <p>■江田島市</p> <p>【事務局：企画部企画振興課】 渡辺 高久 企画部長 畑河内 真 企画部企画振興課 課長 古江 悟 企画部企画振興課 専門員</p> <p>【事務局：株式会社エブリプラン】 加藤 文教</p>
欠席者	<p>■有識者会議委員（敬称略 所属団体については就任時の状況）</p> <p>岩田 敏彦 厚生労働省広島労働局呉公共職業安定所 久保河内 鎮孝 江田島市漁業振興協議会</p>
傍聴者	—
会議次第 及び資料	<p>会議次第</p> <p>1 開会 2 座長あいさつ 3 説明・報告事項 江田島市の現状について【資料1～資料4】 4 協議事項 人口減少傾向の改善に向けた戦略の検討について【資料5～8】 5 閉会</p> <p>【資料】 資料1：江田島市の現状と方向性（市総合計画・総合戦略） 資料2：江田島市の人口移動等の状況 資料3：平成29年度市民満足度調査の結果について 資料4：江田島市印象調査の結果について 資料5：分野ごとの取組施策及び市民満足度の向上のための所管課の取組方針案 資料6：総合戦略の具体的施策と現時点における成果と見直し方針案 資料7：第2次江田島市財政計画（H29.6見直し）の概要 資料8：人口減少傾向の改善に向けた論点 参 考：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱</p>

【平成29年11月14日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第5回）要点録】

会 議 記 録	
事務局	<p>1 開会</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりくださり、誠にありがとうございます。 会議の開催に先立ちまして、事務局からお知らせします。 資料は、次第、委員名簿、資料1から資料7、本日追加配布した資料8、最後に参考資料をつけています。資料に不足がございましたら事務局にお申し付けください。 また、本日は、議事録作成のため会議を録音させていただきます。ご了承ください。 ただいまから、江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議の第5回会議を開催します。 会議は、次第に沿って進めます。 はじめに、市村座長からご挨拶をお願いします。</p>
座長	<p>2 座長あいさつ</p> <p>皆さま、こんにちは。お忙しいところ、ありがとうございます。 資料を拝見しますと、第5回と書いてあります。初めて参加される方もいらっしゃると思いますが、私の手元の資料を見ると、昨年10月に開催して、引き続き第5回、継続して行っているという意味です。本年度としては最初の会議ということで、ご認識いただければと思います。 挨拶ということで、地方創生の話をしないといけないと思います。 この1年間、私がどういうことをしてきたかを考えると、広島県でよく言われているのはIOT、皆さんも新聞等でご存じだと思いますが、人工知能AI、まさにその専門で、毎日のように引っ張りだこになっています。昨日も県庁主催のIOTセミナーを行いまして、いろんな企業が参加されています。だんだん世の中が変わっていくのかなという思いです。これで一つの産業の育成に、今度、県だけではなく、いろんな市町のところでもお話しさせていただきます。12月25日には、呉でIOTとAIについてお話しさせていただきます。自分には全然関係ないと思われるかもしれませんが、実はいろんなところで関係しています。世の中が第4次産業革命というかたちで動いています。工業だけではなく、農林水産業も含めて身近な生活が大きく変わってくる、こういう生活の影響の中で、いろいろな産業が行われていたり、そこに人が集まってきたり、そのうえで我々の生活が成り立っていくのではないかと考えて、今見ているところです。 1年間を通じた江田島市の数値的な資料は、皆さまのお手元に資料としてお配りさせていただいています。その資料を見ながら、どのように変化しているか、今後どのようにしたらいいかを、皆さまと一緒に考えさせていただければと思っています。 よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。 本日は、当会議が今年度初めての開催でありまして、委員の皆さまにおかれましても、各所属での異動により初めてご出席いただく委員さんもいらっしゃいますので、あらためて皆さまに自己紹介をお願いします。</p>
各委員	<p>※濱中委員から自己紹介（P1の「出席者-有識者会議委員」を参照）</p>
事務局	<p>ありがとうございました。 本日は、久保河内委員及び岩田委員からご欠席のご連絡をいただいています。</p>
事務局	<p>3 説明・報告事項</p> <p>それでは、当会議の進行については、当会議設置要綱第5条第2項の規定により市村座長が議長となりますので、ここからの進行は議長にお願いします。</p>
座長	<p>ここからの議事進行は、私が務めさせていただきます。 それでは、次第3の説明・報告事項として「江田島市の現状について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>江田島市の現状について 【資料1～資料4】 ※内容は資料1～資料4のとおり</p>
座長	<p>ただいま事務局から説明と報告がございましたが、ご質問はございますか。</p>

【平成29年11月14日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第5回）要点録】

委員	生産年齢人口15歳からの間の人口の割合は調べていますか。
事務局	資料2の2頁目、住民基本台帳ベースです。
委員	仕事による移動の中で、自衛隊員の話がありましたが、外国人研修生は含まれていませんか。
事務局	研修生は入っていないと思います。住民票を出していれば入っています。
委員	住民票を出している場合がありますよね。その辺のデータは特にありませんか。
事務局	理由別は属性を取っていないので、そこを切り分けてというのは難しいです。
委員	資料の①人口の年齢構成のところ、広島市、呉市に出ている方が多いとありましたが、それを掘り下げて、なぜ広島市、呉市に行くかは調べていますか。
事務局	ピンポイントで出て行かれた方に聞いているわけではありませんが、資料2の③、それぞれの転出調査の理由別のところを見ると、大きいのは仕事だろうというのは想像するところです。仕事、就学、大学、高校ももしかしたらあるかもしれません。結婚を契機に出ていかれる方がおそらく多いのではないかと考えています。
委員	小学校、保育園がないからという理由も就学の区分に入りますか。
事務局	保育園はないと思います。待機児童は江田島市にないので、それが理由ではないと思います。資料2の③にあるのは、移動の主な原因になった人なので、親が引っ越すから自分も出ていく方は、ここには入りません。移動のメインの理由になった方がここに出てくるので、あまり小さい年齢の方は入らないと思います。
委員	自衛隊の出入りが江田島市の特殊要因だと思いますが、自衛隊を除いた数字の把握は可能ですか。職業が国家公務員まで把握するようになっていけば、そこを便宜上除けば、なんとなくその数字はつかめる気がします。
事務局	実際、既存の統計のものでは出ないので、試しにということですが、今年度、住民票の窓口が別様式で自衛隊の方にアンケートを採っています。きっちりした精査はこれからですが、そういった形で、別にもう1枚紙に書いてもらうのであれば可能です。 ただ、数カ月やった実感として、所管課は、任意のアンケートなのであまり回収率がよくないと言われていました。
座長	回収率はどのくらいですか。
事務局	配布が1,200枚で回収が1,082枚の84%ですが、転入転出で1,200枚しか配れていないということなので、出入りとすればもうちょっとあると思います。
座長	回収率は高いですね。それがここの特徴かなと思います。
事務局	転出のときは急がれているので、書いてくれないところを無理に書いてとまでは言えず、書いてくれる人をお願いしています。すべての人が書いてくれるわけではありません。精査の部分については、これがすべてとは言にくいです。
委員	回収率がそれだけ高ければ、全員にきっちり配布すれば、それぐらい回収できそうだと思います。 社会増をどこも目指していますが、自衛隊除きで社会増になっているかは、KPIとしてかけたほうがいいのかと思います。それが測定可能になるといいなということでの質問です。
事務局	今年度試しにやってみて、課題も住民票の窓口で感じたようですので、来年度はもう少しやり方を考えます。来年には、こんな感じだとお示しできればと考えています。
座長	アンケートは、自衛隊の方がチェックするだけなんですね。
事務局	チェックしたあと、アンケートに答えてもらいます。 年代や移動理由を書かれています。
座長	自由記述で書くと答えない人がけっこう出てくるので、簡単にしたほうがよいと思います。 他の市町では、回収率が悪いためデータが採れないという理由はありますが、回収率

【平成29年11月14日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第5回）要点録】

座長 (続き)	がこれほど高いので、推定はある程度できると思います。 きっちりした数字が採れなくても、ある程度の推定値で、こういうことが言えるのではないかということはあると思います。
委員	年齢や理由は、全体としては採っているのですが、わざわざその追加アンケートを加えることで回収率を下げるよりは、自衛隊ですかとだけ聞けば回収率はもっと上がるかもしれません。
委員	市民満足度調査について、アンケート調査ということは分かりますが、質問としては、この項目についてどれくらい重要だと思っておりますか、という聞き方でしょうか。
事務局	60項目ぐらい用意していますが、それぞれについて、満足している、満足していないを、5段階評価で1から5の数字に丸をしてもらいます。それをポイントに置き換えて出しています。
座長	他にございませんか。 それでは、次に次第4「人口減少傾向の改善に向けた戦略の検討について」事務局から説明してください。
事務局	4 協議事項 人口減少傾向の改善に向けた戦略の検討について【資料5～8】 ※内容は資料5～8のとおり
座長	ありがとうございました。 ただいま事務局から説明がありましたが、資料6、総合戦略の目標数値の変更についてご意見はございますか。
委員	資料6の2頁のカキの目標変更ですが、新たに5℃で管理して新たなブランドの創出を目指すということですが、市内に69ある業者さんの応諾は取れていますか。
事務局	これからコンセンサスを取りながら進めていこうということです。
委員	農水水産課に聞いたら分かりますか。
委員	私は、各協議会の委員もやっています。 2年ぐらい前に、カキのマニュアルを作って、各業者さんにパンフレットを配りました。強制はできない中で、こうしようという取組を続けてきました。実質、まだまだ浸透はしていませんが、良いカキをつくろうという方は、実行されているようです。
事務局	カキを束にすると、どうしても熱を持ちます。そこで、海水で作った氷をそこに入れて冷やすという取組も行われています。
委員	市と協力しながら、2カ所作ったと思います。
事務局	最初に1つ作る時、私もいました。 海水氷を使うことで身も傷まないという、実質的な取組が行われています。
委員	事業者が、すべてそういう形で実行すれば、江田島のカキは品質管理も良いということで、他と差別化できるという思いで取り組んでいます。まだまだ浸透していません。
委員	資料6の6頁に保育園の入園率99%とあります。 認定こども園で幼稚園部分の方も含めて受け入れることができるという数値だと思いますが、保育園入園率にすると、全部保育園ですという整理はどうなのでしょう。保育園は、あくまでも保育を必要とする人という要件があります。認定こども園は、そこに幼稚園部分が入っているので、受入は可能ですが、99%保育園という整理はどうなのかと思います。
事務局	表現方法については、また検討させていただきます。
委員	同じく4頁の施策③、体験型修学旅行の受入人数について、関係委員さんが先頭をきって取り組んでいただいている事業になると思います。 平成24年度からスタートして、大きく成長して、平成29年度も非常に伸び率が高いということで、広島県下においても特出できる事業に育っていると思います。KPIを回す中で、平成31年度に13,000人という数値目標を掲げられていますが、この事業が大きな経済効果を伴ってきている中で、この有益性から、江田島市としても、側面支援を強化して、さらに事業を拡大していくという展開時期に来ているのではないかと

【平成29年11月14日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第5回）要点録】

<p>委員 (続き)</p>	<p>思います。 というのが、ここに書かれているように、同じ家庭が何校も受け入れて疲弊されているという状況も確かに見受けられますので、受入家庭数は、受入人数の増加に伴い必要な数値になると思います。その受入家庭数を増やすためには、例えば、受け入れのために少し家を直すための補助金が活用できるなど、受け入れることのメリットをつくってあげることで、背中を押してあげるなど。全額とかそういうレベルではないですが、少しメリットがあって、やってみようか。そのような支援が少しあることによって、受入家庭が増えるのではないかと思います。 これは、別の協議会がありますので、そこでも話していかなければいけないと思いますが、その辺に関してはいかがですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>おっしゃるとおり、受入家庭数を増やしていかなければ、今後、苦しいというのは確かにあります。そのためには、何がネックになっているかということで、家業体験ができない家庭は泊まるだけで、家業体験ができる家庭との組み合わせでも大丈夫など、随時改良を加えています。 そうした中で、受け入れができないという家が多いようであれば、そういったことも考えていくのは、やぶさかではないと思います。 何がネックかをしっかり探りながら、ボトルネックを解消するように考えていきたいと思えます。</p>
<p>委員</p>	<p>今、委員さんがおっしゃられたとおりですが、今年度は、来年3月まで4,400人の受け入れがあります。経済効果やそれに対する対価は、6,500人まで受け入れれば1億円ぐらいと大ざっぱな感覚ですが、それができれば広島エリアでもナンバーワンになれるかなと思います。 受入家庭の問題も出ましたが、現実には、交流促進課の民泊に関わっている職員さんは数が足りません。数が足りないということは、民泊の受入もなかなか進まない状況にあるということになります。 私は常々思いますが、民泊は、江田島市にとって非常に有益で、好立地な位置にあって、他に負けないものが当然できると踏まえています。市の重点施策としてやるのであれば、マンパワーが足りません。ビジネスという部分の感覚が足りないと思います。 これはビジネスです。ビジネスなら、ビジネスらしい内容を整える必要があります。市役所の人にビジネス感覚を持つというのは難しいかもしれませんが、これをやらないとビジネスとは言えません。例えば、何月何日に3校受入れました、2校受入れました、一月に4校～5校となると、かなりの負担になります。家庭も運転資金が必要です。市役所も当然ビジネスですから、これはいつ支払いますときちんと決めなければいけないところが、少しぼやっとしています。 お金のことなので、受入家庭はあまり言いたくありません。ただ、それをいいことに先延ばしていたという現状もあります。その辺は、ビジネスという感覚を分かってないをつくづく思います。市役所の方にビジネスの制約などを言うのもどうかと思いますが、その辺は一番大事なことで、続けるためにはお金に関わることをきちんとする必要があります。来年度ももっと伸ばそうと思えば、その辺もしっかりしてもらわないと、現状、受入れをしても、いつ支払われるか分からないでは成立しません。1週間だと思っていたところが、いきなり1か月延びるということが現状としてあるので、そういうことでは駄目だと思います。 これは、切に要望したいところです。お金のことを全部私のところへ言われても、私は事務局の一員でもないし、お金がどうなるかさっぱりわかりません。受入家庭数を伸ばしていこうと思えば、契約でこうなっているなど、みんなが安心して受入れできる体制を作る必要があると思います。受入家庭数が伸びない原因の一つは、そういうところにもあると思います。 それとマンパワーを伸ばしていくということです。事務局の人は、事務手続きなどで一生懸命です。可哀そうなくらい一生懸命で、これ以上伸ばしたらどうなるかと思うような状況もよく見られるので、その辺の対策もしっかりしてもらいたいと思います。江田島市の重点施策としてやるのであれば、それなりの体制、枠組みを作っていただきたいと思えます。</p>

【平成29年11月14日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第5回）要点録】

委員 (続き)	もう1つは、定住促進です。 同じ交流促進課の中にありますが、担当者は1人です。もう1人いますが、他の事業を担当しています。1人で空き家バンクの整理をしながら、定住相談の対応もしなければいけません。 前の市長が重点施策でやると言っていました、何もできていません。マンパワーも足りない、余裕もない、お金もない。口だけということになるので、体制は大事だと思います。ここに重点的に腰を据えた施策をやってもらいたいと思います。よろしく願いします。
事務局	お金の話がビジネスだとしたら、月末締め翌月末払いとか、普通だとそういうパターンが多いですが、そういうルールの回し方になっていないということでしょうか。
委員	運転資金の問題です。 ビジネスには運転資金がどうしても必要なもので、そこはきちんとしなければいけないと思います。
委員	利用した費用の支払いと運転資金の話は、また次元が違う話だと思います。
事務局	支払いの件については、私からも早くするよう重々言っています。 委員さんがおっしゃるとおりで、マンパワー不足の部分がありまして、今年度、臨時職員を増員したり、いろんなことで、できる範囲で一生懸命やっているところです。
委員	それは分かります。ただ、ビジネスなので、できる範囲でやっていますでは駄目です。きちんと期日を決めて、支払いはいつですと決めなければいけません。受入家庭数が増えない原因は、そこにもあるということです。家庭の支出も、月に何校も受入れればものすごく増えます。10万円くらい余計に出ます。
委員	ビジネスでそれを2回やったら、不渡り2回で倒産です。
委員	そういうことです。入金がないから待ってくださいでは通りません。それはビジネスの世界の厳しさなので、それはそれできちんとやっていかないとはいけません。お金のことから、皆さん言いたくありません。言いたくないから、それを、いいか、いいかでは伸びません。厳しい言い方をしますが、現状はそうです。
委員	昨年も委員さんにお話ししていただいているので、私からも言います。 協議会の中で今の話をしなければいけない問題だと思いますが、全体的な江田島市の活性化を考えたとき重要なポジションを占める話なので、企画振興課からも、交流促進課にしかるべきこういう指摘があったと伝えていただきと、改善をしてもらいたい。
事務局	この有識者会議で出た話は、所管課につないで、こういう意見が出たから改善するように考えてと伝えます。 実際、おっしゃられるとおりに、何校も受け入れたときに立て替えるのは、つらいというのもおっしゃるとおりだと思います。
委員	若年層の受入家庭も増えてきたのですが、正直なところ、家庭の支出が月に余分に出たらしんどいと思います。
委員	資料6の11頁と17頁に、介護予防教室やまちづくり協議会の数が上方修正されていますが、数をつくる以上に、活発に活動しているかが大事な視点だと思うので、メインの指標としては数を書くとしても、それがどれくらいの頻度で活動しているか、延べの活動回数とか、アクティブ度を測る指標をもう一つ持って、そこをウオッチされたらどうかと思います。
座長	それに関連して、数値が上がっているところでは、体験プログラムが上がりました。 協議会については、協議会同士のつながりが必要になったり、そういうところの、数値を上げるだけではなく、それに伴って、いろいろ課題が出てくると思うので、それはピックアップしてチェックしていくことをしないと、また回りませんが出てくると思います。 同じく1頁の有害鳥獣は何を指していますか。
事務局	基本的に農業被害額で、被害が出ている農作物の被害額と捉えていただければと思います。
座長	有害鳥獣の種類は何ですか。

【平成29年11月14日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第5回）要点録】

事務局	イノシシやカラスです。これは農作物ですから、ほぼイノシシやアナグマです。畑に入っている農作物に被害を与えています。
座長	うちの大学でも、そういう装置を作っていますし、他市町でも、同じように問題を抱えて、解決しようとしています。そういう他市町と連携をとりながら、同じような問題があると思うので、一つの例を挙げただけですが、他市町でもあるような課題については連携して、他にいいものがあれば取り入れるといいのではないかと感じています。
委員	<p>資料5の産業・観光ですが、毎年こういうデータを作られて、だいたい青色のところを担当させていただいています。</p> <p>資料6の創業・起業の年間件数は、平成28年度に1件ということです。</p> <p>商工会も創業塾をして3年目になるところですが、有能な講師の方に来ていただいて、いつも定員を満たしている状況で、他地区からもわざわざ受講に来られている状況です。起業を江田島市内でしたいという方が、ある程度おられるというデータは採れていると思います。</p> <p>市も、いろんな補助金をつけていただいて、その辺の活用も上手くいっていると思います。有用であるがために、不足気味かなということで、創業支援をするような補助金の充実や、いろんなメニューを書きいただいています。包括的に江田島市独自の経済対策を、もう一回、取り組みの変更と先ほどおっしゃったと思いますが、民泊の補助金も一つだと思います。各分野の各経済対策の取りまとめが、どこかで必要だと思います。いろんな利子補給や企業立地奨励金などがありますが、もっと戦略的に、江田島市にこういうものがあるというのを他地域にもアピールできれば、江田島市に住んで起業しようという人の増加につながると思います。その辺もご検討いただければと思います。</p> <p>定住を促進する中で、資料8の若年層への住宅用地の提供は非常にいいことだと思います。当然ながら市有地の売却に伴うことだと思いますが、江田島市の土地はわりと高価です。評価に対しての販売額がそうになっているということなので、若年層の皆さんには、手が出しにくい状況が見てとれるところだと思います。それを住宅購入補助金なども含めてとなるとと思いますが、そもそも土地の有効活用、市有地の有効活用の部分でも、もっと違う販売の仕方ができないかと思っています。</p> <p>旧飛渡瀬保育園が閉園しているという状況で、ここを更地にして住宅用地にするとなれば、場所は非常にいいので、買いたい方もいると思いますが、かなりの高額が予想されます。そうであれば、もっと若年層にアピールできるように、今江田島市が決めていらっしゃる評価額をある意味入札的な価格設定にして、いろんな条件をつけながら、例えば、江田島市内に今住んでいる方がさらに土地を買うのではなく、移住してこられる方が購入される場合は安価で購入できますという内容を検討してみるのはいかがでしょうか。せっかく江田島市の土地がたくさんありますので、そういったものを有効活用していけばよいと思います。</p> <p>また、定住促進や若年層を増やす取り組みとしては、認定こども園があり、待機児童がゼロなんです。これは非常に誇れる部分だと思いますので、もっとその辺を総合的に大いにアピールして、江田島は子育てしやすいであるとか、仕事がないなら呉に通えるという視点で住んでいただくのが、非常に大事だと思います。</p> <p>その辺を戦略的に考えていただければと思います。</p>
座長	<p>今、一通りご意見はいただきましたが、資料6の目標を変えたところに対して、皆さまにご承諾を得なければいけません。</p> <p>資料6について、この変更をお認めいただけるかということで、他にご意見があればお聞かせいただきたいのですが、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、文言の検討をする部分について、委員の皆さまからご指摘をいただきましたので、それは事務局で検討いただいて、数値目標の変更は了解したということで、次に進めさせていただきます。ありがとうございます。</p> <p>議事の進め方として、次は、資料8です。</p> <p>今、委員さんからもご指摘いただきましたが、今日議論しなければいけないところは、最後の優先すべき分野、ターゲットについて、皆さま、専門の分野のお立場からの視点、もしくは市民の皆さまからの視点として、ご意見があればお願いします。</p> <p>お1人ずつ、ご意見を伺うことになるとと思いますので、私から指名させていただきます。</p>

【平成29年11月14日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第5回）要点録】

座長 (続き)	<p>す。優先すべき分野，ターゲット層に効果があると思われる具体的な事業についてお伺いします。</p> <p>まず仕事について，江田島市金融懇談会の委員さんにお伺いします。</p> <p>市内の事業所の動向など，仕事に関する状況について，何かございましたらご紹介いただきたいと思います。金融機関としてどのような取り組みを行っているか，どのような取り組みがあればよいか，それについてご意見をお伺いしたいと思います。簡単にいうと，市内の事業所などの動向，お感じになられている点があれば，銀行としてどのように取り組みをされているかということをお願いします。</p>
委員	<p>市内の事業所を見る中で，優先すべき分野は何でしょうかという答えはありません。</p>
委員	<p>現状はどうでしょうか。事業所の後継者が不足しているという話はよく聞きます。</p>
委員	<p>人口が減っているのは，江田島に限った話ではありません。</p> <p>日本全国，広島県でも，広島市も全部減っていますから，このような状況は普通だと思います。そうした中で，他と同様，各事業の業種ごとに若干の差はありますが，後継者問題等もあって，事業者は減っていくと思います。ただ，商工会の会員数が700人と考えると，減ってはいるでしょうが，明日なくなるということでもなく，まだまだ新しく入ってくる方もいらっしゃいます。</p>
委員	<p>商工会の中で非常に大きな問題としては，家業としてご商売，事業をやっている方が，事業承継，息子さんとか，いろんな方に跡を継いでいただくのが非常に難しいというのが，商工会としては喫緊の課題でして，なかなか答えが見いだせないところです。当然いろんな問題があると思います。なぜ息子に跡を継いでもらえないのか，息子さんが継がないのか，いろんなケースがありますが，しっかり事業者の方に寄り添って，フォローしていきます。金融機関さんもそうですが，実際に困っていらっしゃることに對して，一緒になって問題を解決することを継続的に行うと，息子に跡を継がせようという気持ちになる。今，一番やっていかなければいけない事業の一つだと思います。税制面や株式の問題など，いろいろ問題もありますので，それを新たに来年度にでも，事業承継として積極的に組み込んでいかなければいけないと痛感しています。これが，江田島市内の産業の基点である事業者さんの数を減らさないことにつながっていくと思います。補助金がどうのという話ではないので，家庭の内面まで入る仕事になると思いますが，やっていかなければいけないと思っています。</p>
委員	<p>市役所でも取り組んでいらっしゃると思いますが，事業承継は，もう少し広い範囲でいうと後継者問題になると思います。</p> <p>先ほど，委員さんは，どちらかという普通の商工業者さんの跡継ぎのイメージでお話されているように聞こえましたが，農業漁業も同じだと思います。いろんな対策を打っていらっしゃいますが，そこも含めて後継者ということでひっくるめて，全業種にわたるように市役所には，広くご検討ご対応いただきたいという思いがしています。</p> <p>商工会さんも，銀行も，税理士とかいろんな方になるでしょうが協力しますので，よろしくをお願いします。</p>
委員	<p>金融機関は，農業とか，いろんな後継者のいない，仕事はしたいけど後継者がいないから難しいというところの橋渡しを，いろんな形で，情報交換しながらしておられますので，ご遠慮なくご相談されるとよいかと思います。</p>
座長	<p>次の議題について，3人の委員のお名前が挙がっています。</p> <p>ここに書かれていることを聞いていただければと思いますが，産業団体の委員の皆さまに，団体としてどのようなところを目指して，どのような取り組みが行われているのか，人口減少の改善のために，それぞれが所属されている分野において，どのような事業があればよいかの2点です。</p> <p>1点目は団体として目指すところ，2点目は人口減少の改善のために何をしているか，どういう事業があればいいかをお願いします。</p>
委員	<p>数値目標の進捗状況の中の平成28年度の年間観光客数54万人について，触れなくなかったのですが，観光協会として課長さんからやさしい言葉で厳しく指摘されたという思いがあって，これらをしっかり精査しながらやりますが，報告がありましたように縁づくりという形で進めていきたいと思っています。</p>

【平成29年11月14日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第5回）要点録】

<p>委員 (続き)</p>	<p>宿泊施設が整備されて平成31年度スタートすると、能美海上ロッジのところで5階建ての宿泊施設ができます。これを起爆剤として、ある程度の入り込み客数を見込み、お客さまに来ていただいて江田島のことをよく知っていただきたいと思います。</p> <p>それと6次産業化の中で検討していますが、道の駅の整備をして、宿泊施設だけではなく、道の駅など点ではなく線にして、観光客さんに江田島へ来てよかったと、ここへ住もうかという形の施策をできればいいということで、私の次の段階は、道の駅を整備したいという思いがございいます。</p> <p>観光協会としても協議しながら進めていきたいです。</p>
<p>委員</p>	<p>各3団体に話を振っていただいています。農商工連携という国の施策がございまして、当然水産も入っていますが、地域の経済団体をもっと交流させていただいて、投入事業を行政と一緒にさせていただきたいと思っています。その枠組みを昨年度から江田島市でも取り組んでいただいて、平成29年にはかなりの具体的な施策が出来つつあるということで、平成30年に向けてスタートが切れるかなと思っています。農協さんも、銀行さんも、今まで連携をとらせていただくことがなかったと思いますので、いろんな形で一つ一つ相互に理解していきながら、1次産業の応援やバックアップをさせていただく取り組みが、江田島市内経済にとって一番重要な課題ではないかと思っています。</p> <p>来年度も一緒に取り組ませていただければと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>農業の新規就農者の数値はクリアしているということで、ほとんどキュウリの方が就農されていると思います。ただ、新規就農者も大事ですが、市役所には、現状の農家さんにも、より一層力を入れていただきたいと思っています。</p> <p>人口を増やすといっても、農家で一年間生活していくのは結構大変です。家族、パートさんも問題になっていますが、一年間、春夏秋冬に作物をつくらうと思うと大変で、昔は春と冬で、夏はあまり作物をつくらなくても収入がありましたが、今は安値安定で市場も安値安定型なので、一年間作物をつくる栽培になっています。そうすると、体が一つだと大変なので、その辺も含めてバックアップしてもらえばと思います。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に子ども教育について、関連する3人の委員にご意見を求めることとなります。県における少子化や子育てに関する動向や取り組みの状況、また江田島市ではどのような事業を展開すれば効果があると思いますか。</p>
<p>委員</p>	<p>子育て支援の県の動向ですが、広島県では今年度からネウボラ促進事業に取り組んでいます。</p> <p>ネウボラとは、フィンランドで100年ほど前に始まった子育て支援の取り組みです。妊娠期からずっとネウボラという場所ですが、相談する場所という意味ですが、妊娠したらすぐにネウボラに行って、健診や子どもが生まれた後の予防接種、乳児健診、乳幼児検診といったものをすべてそのネウボラで行います。そうした中で、相談者の保健師さんが、マイ保健師ということで、ずっと同じ方が関わっていくことで、その家庭に対して、より深く関わりを持つことで、その家庭が抱えた問題を早期に発見して、早期に支援に結びつけている仕組みを広島県でも取り入れていこうということです。今年度からモデルということで、福山市、尾道市、海田町で広島版ネウボラ構築モデル事業を進めています。これを江田島市さんにも、県下全域に広げようという考えも持っています。</p> <p>そうした中で、江田島市さんが今後施策を進めていく上で、今の待機児童もないという子育てを受け入れる社会資源がきちりできているというのを、もっと対外的にPRしていくべきです。その活用策として、ネウボラもぜひ活用していただきたいというのがありますし、もう一つ今動きがあるのが子どもだけではなく、子どもも障害者も高齢者も、一緒に地域全体で一つの拠点をつくって、地域共生社会をつくらうという動きがあります。</p> <p>特に江田島市の人口構成は高齢者が多くて子どもが少ない状況なので、江田島市民全体で子育てを支えていく体制づくりを、そういう目に見える形で、高齢者の方がたくさん集まる場所で子育てもそこでやっていくといった、拠点づくりを出していくのも、子育てしやすい江田島市を打ち出していく上では、いいきっかけになるのではないかと思います。</p>

【平成29年11月14日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第5回）要点録】

座長	<p>子育て世代の意見として、どのような事業があればよいと思いますか。市PTA連合会及び保育園保護者会の委員にご意見を伺います。</p>
委員	<p>江田島市には療育、障害を持たれた子どもを検査してくれるところがありません。保護者が困らないように、そういうところがあればいいなと思います。いつも検査をしてもらうのに3か月から半年待ちです。その間に子どもは成長するので、そういうところが江田島市にあればいいなと思います。</p> <p>私は三高に住んでいますが、三高中学校が統廃合の対象校となっていて、学校がなくなると、地域とのつながりなどもなくなります。</p> <p>学校は、地域に残していただきたいと強く思います。就職と交通の便と学校と、そういうもののつながりがないと、人は増えません。人口はどんどん減っていくと思います。全部がつながっているのだから、そういうことをしっかり考えていただきたいと思います。まちから入ってこられて、ここで働かされている行政の方がたくさんおられて、地元の意見をなかなか反映されていなくて、学校をあまり考えられていないのかなと思います。申し訳ないですが、そういう気持ちで聞いていました。あとは、ここに教員の資質向上と書かれていますが、学校の先生も頑張っておられて、いろんなところで発表がありますが、江田島市の子どもたちは、そういうところで活躍をしています。いろんなところに、応援していただければいいなと思います。</p>
委員	<p>私も同じ意見です。</p> <p>療育の環境が整っていないのではないかとこのことをすごく感じていて、私自身、下の子が発達障害で、同じクラスの子が12人いますが、そのうち数名疑いのある子がいます。すぐには療育にいきません。予約を取ったのが9月ですが、明日やっと予約が取れました。宇品の子ども家庭センターで検査をするのですが、そこで検査して療育を受けられるようになったとき、療育を受ける場所がないと思います。</p> <p>通うとなれば仕事もしているので、呉市か広島市で自分の子どもに合った療育の場所を探さなければいけないので、そういうところを考えてほしいなということです。</p> <p>あとは習い事とか、そういう面で、もうちょっと力を入れてくれたらと思います。少ない感じがします。団体の方にも、支援もお願いしたいなと思います。</p>
座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>地域の暮らしについて関連する委員にお伺いします。市内の移住者の傾向や、特徴などについて、お気づきの点があればご紹介ください。どのような取り組みがあればいいと思いますか。</p>
委員	<p>最近の移住者の傾向として、若年層、30歳そこそこのご夫婦の移住者が増えてきました。以前は都会から定年退職後の移住者が多かったのですが、2～3年前から変わってきました。</p> <p>今の東京一極集中主義もあるでしょうが、夫婦の考え方として、自然の中で子育てをしたいという家庭が非常に増えていると思います。実際、来られた方は、皆さん同じように言われます。生活のサイクル、お金という部分も含めて、例えば東京で30万の月収の人が江田島に来て20万になったといいます。でも、生活レベルとしては、江田島のほうが人間的にゆったりとしていい生活ができ、ストレスも感じないということもあって、最近増えてきました。当然、教育の問題も絡んでくると思いますが、待機児童もないと私もよく言いますが、そういうことも含めて、今からの時代の若者の生活の場としては非常にいいだろうと思います。その辺も、定住促進、人口を増やすということもありますが、来られた方の生活の質が上がる、豊かになることも踏まえて、今からどんどん活動をしていけばいいと思います。</p> <p>定住促進という部分で江田島市も活動していますが、全国的に、うちのまちに來い、うちの村に來いということで、やっています、江田島市の場合はマンパワーが足りないと言いましたが、担当者が1人です。これではできません。それも今の地域おこし協力隊員の協力も得ながら、東京、横浜、各地での移住フォーラムにも行くということです。江田島市独自のキャンペーンを押すとか、こういう政策がありますと、自分が積極的に出向いてやるというのは皆無です。そういうのがないと、他の地域には勝てません。</p> <p>財政的な問題も絡んでくることなので、難しい問題もあると思いますが、本気で移住者を増やそうということになると、出向いたキャンペーンを張るとかまでやらないと、</p>

【平成29年11月14日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第5回）要点録】

<p>委員 (続き)</p>	<p>駄目だと思います。</p> <p>15年ぐらい前になりますが、江田島市になる前に、広島県定住促進の方と一緒に東京に行って広島暮らし商談会をやりました。そのときには、座談会方式で、興味のある人はぜひ来てくださいということで、3時間近くやりました。そのうちの1時間ぐらい私が話をさせてもらいましたが、その場で、時間が長くて人数も絞ってやった結果、ここですぐ質疑応答ができることもあって、来られる方も非常に勉強されていて、細部まで突っ込んで質問されることもあって、これで終わりますという、2人ほど移住しますと来たのです。今説明したばかりで、大丈夫かと思いましたが、その方たちは、事前によく勉強されていた。</p> <p>私の経験からすると、出前もやらないと、その他大勢でやっても、たいした効果はないと思います。その中でも、たまにこっちに來られて、一晩、移住に関しての話をさせてもらうのですが、中には、実際に体験、移住して体験して、こういうこと、ああいうことという実態に即した説明や注意ができるということで、初めて、そうかということで、移住者の仲間内がたくさんいるということもあって、最終的な移住を決断することになっているのです。江田島は、來られた方は絶対いいと言っていますし、その辺のPR活動を江田島市独自のものをつくってやっていきたいと思っています。それが定住促進につながるのかなと思います。</p> <p>仲間がいるということは、大変心強いことで、知らないところへ行って、人間関係ゼロからつくろうと思うと大変です。それが間に立つキーパーソンがいると、安心して來られるという部分が大事なことだと思いますので、今からそういうことで頑張っていけたらなと思っています。</p>
<p>座長</p>	<p>自治会連合会の委員さんに、地域住民の意見として、人口減少の改善に向けてどのような事業があればいいと思いますか、ご意見をお聞かせください。</p>
<p>委員</p>	<p>江田島市には32の自治会があります。32の自治会でそれぞれ会長さんがいて私がおの代表で來ていますが、非常に困っているのは、各地域の世話をしてくれる人がいないという現状です。人口減少をどうすればいいかという、なかなか難しいですが、自治会としては世話役や、地域の皆さんの意見を取り入れるために、視察研修で、昨年も岡山県内の小さな村に行きました。なかなかしっかりしてやっていました。その代表者の方が言われたのは、地域でやっていくなら女性に活躍してもらわないと、その地域は発展しないという話があり、我々も女性に活躍してもらおうということで、先月、女性の方ばかりここへ集まってもらって、ワークショップ方式で話をしました。</p> <p>ワークショップで出た意見をまとめて、今度は各32の自治会の会長に女性たちからこういうご意見をいただきましたとか、それを参考に女性にもっと活躍していただくようにということで、今始めています。</p> <p>來月、安芸高田市に視察に行きます。安芸高田市は広島県の中間で、われわれは海なので全然環境が違いますが、安芸高田市は神樂の聖地ですね。その神樂はどのようにして運営しているか、そういうのを勉強していただこうと思います。江田島市はカキのまちなので、カキのまちを向こうの人は知りません。そういうイベントで交流を図ることをしていこうと考えています。現状では、人口減少をどうするかはなかなかいい意見が出ないです。</p>
<p>座長</p>	<p>次に情報発信に関する委員さんに伺います。</p> <p>人口減少社会において居住地として選択してもらうには、地域に関する情報発信を担う役割も大きいと考えます。そこで、県における情報発信の動向や取り組みの状況、また江田島市ではどのような事業を展開すれば効果があると思われるかご意見を伺います。</p>
<p>委員</p>	<p>特に資料8に書かれている内容を踏まえながらお話しできればと思います。</p> <p>よく情報発信の強化といいますが、魔法が使えるわけではないので、多少の手品は使えるのですが、ネタが必要です。事実、それが江田島ならではのものです、県内ナンバーワン、オンリーワンのものだと、なおいいです。そうするとこの原理で、情報発信力を上げることができます。</p> <p>資料8の最後に、優先すべき分野ターゲットをどう考えるかという問いが書かれていますが、これは非常に大事な視点で、誰に何を訴えるか、万人に刺さるものは今ないので、江田島の強みが刺さる相手はどういう人かを、いろいろ仮説をつくって検証してみ</p>

【平成29年11月14日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第5回）要点録】

<p>委員 (続き)</p>	<p>てということ、やらなきゃいけないですね。</p> <p>ここで仮説が出てきていますね。就業世代と、その親の世代をセットにしてターゲットにしたかどうかというものです。これはすごく面白いと思います。実は子育て世代だけでいくと、坂町や海田町が、とにかく子育てのまちナンバーワンで、一生懸命広島市部から人を、若夫婦、子育て夫婦を呼び込もうとしています。そこ江田島がセットだとすると、近さだと負けますね。ただ、昨日も岸根の下見で、瀬戸内 DMO の人が来てびっくりしていたんですが、すごく自然が豊かできれいだと、かつ、近い。この近さで、ここまでの自然があるのは、すごいと。これは江田島ならではなんです。だから、親の世代、移住してきてリタイアライフを楽しもうという人たちにとっては、非常に魅力的な島ですし、島にも関わらず通えます。この両方を持っている島はないですよ。だから、子育て夫婦だけで競ると負けるかもしれないけど、我々の世代の悩みは、自分の仕事の悩みと、子どもの教育の悩みと、親の介護までいっているかはわかりませんが、親をどうしていこうという悩みをみんな持っていますから、バラバラじゃないので、子どもの話だけしていても、気がかりがほかに残っている人は多いと思うんですね。</p> <p>全員が全員じゃないと思いますが、広島市内に住んでいて、子どもができました、子育てにいい郊外に引っ越したいと同時に、県内の中山間に親が住んでいて、そっちも定年になって次のライフステージをどうしようと思っているときに、お正月に集まって、そのときにどうも三世帯移住なら江田島へとやっている。二世帯住宅をつくるのに、すごく手厚い補助があったり、そこからの通勤にすごく手厚い補助があったり、待機児童もゼロらしい、将来、介護が必要になっても、これだけ病院とか入居待ちが少ない、みたいな、それがファクトですね。</p> <p>そこで取りあえず負けないというものをつくって、トータルだと、合わせ技一本で、だったら江田島がいいのではないかと、なるような選ばれ方、最終的にはそういうアピールをしていくとしたとき、どういうファクトがあれば競り勝てるかを考えて、それを戦略的に作っていく、それができれば、選ばれるのかなと思います。</p> <p>親は関係ないですか、そういう人たちはもういいとって、ある程度割り切って、江田島の強みが一番生かせるターゲットに絞って勝負するというのがあるのかなと思います。そうすると、結果として、そういう人たちに対しての情報発信力は上がるので、こちら、そこに割り切って勝負するということで、成果が上がりやすいというのはあると思います。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>最後に、大学の立場からですが、教育機関ですね。元々の所属は、大学としての参加なので、その意味で意見を述べなければいけないと思うのですが、教育機関といっても、小中高大、いろいろあって、違うと思います。今うちの大学でどこに注力しているかということ、高校から見て、その大学が選ばれる大学にしましょうというように、簡単にいうと、高大連携の強化をやっています。大学の先生は教え方がうまいか下手か、互いに授業を見ながらチェックしあう、そういう状況が今、起きています。普通だと、そんなこと考えられないような状況ですが、高校生から見て選ばれる大学にする、高校が県内県立なので、県内から来る学生、県外から来る学生さんもいます。もちろん、県内のほうが多いですが、そういう子たちが就職します。さて、どのくらい県内に残るでしょうか。普通の大学では、30%とか、20%とかです。うちの大学は60%を超えています。70%に近い状況で、さらにそれをもっと増やせと言われていました。仕事はどこにあるかというところで、皆さん選びます。もちろん、広島に行きたい企業、行きたい業種がなければ、東京や大阪に行きます。帰ってくるかということ、これはなかなか帰って来ないですね。他市町と同じような総合戦略で皆さんにご意見を伺ったのですが、お父さん、お母さん、そういう状況で、東京に行かせたいですかと尋ねると、一回は行かせたいと言われるんですね。それは経験として分からないことはないです。ただ、何をどうやったら、子どもたち、学生たちが、自分たちを選んでもらえるか、高校生から見て、われわれが選ばれるのか、同じように、地域のおいても、どうやったら魅力があるかということ、PRしてもらわなければいけない。</p> <p>実は、難しいところですが、うちの授業は大学の共通科目で、地域の理解を入れました。地域の理解を広島でどんなことが行われているか、どんな問題があるか、どうふうにか考えられているか、この前、資料の話をして伺っているときに、企画振興課長に、江</p>

【平成29年11月14日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第5回）要点録】

<p>座長 (続き)</p>	<p>田島のPRを授業でやってみないかと言ったんです。若い人たちに、魅力があるよと、もっとPRしたらいいんじゃないかと。縁のつくり方ですね。どうやったら縁をつくることができるかという、いくつも連携が行われているので、そのうちの一つが、うちの大学です。</p> <p>教育からということですが、大学は教育だけではないですね。研究もやっています。特にうちの大学は、地域貢献、3つ目の柱があって、これがけっこうしんどいんですね。しんどの理由は、教員が地域に出かけて、何かやっても、なんだあの先生と言われて、学問的なことばかり言うと、全然地域の役に立たないじゃないかというのが地域の皆さまからの意見です。そういうことがないようにやらなければいけないです。いくつも失敗はありますが、成功もあります。そのうちの一つがイノシシですね。いまだに研究しています。最近では、エゴマがいいんじゃないかということで、イノシシが嫌っているという研究をしながら、実際に装置を作っています。</p> <p>僕自身も、皆さんもご存じないと思いますが、研究で、人工知能で総務省から検診率を上げようと、お医者さんが6～7割ぐらいしか推定できないのに、僕が作ったのは95%当てられます。自慢じゃないですが、そういう研究をやっている大学もありますので、ぜひ、どういうことをやっている大学か、近場の連携する機関の、相手先がどんなことをやっているかも調べて、大学としてはそういうところがあって、自分たちの息子があそこへ行けばいいんだ、将来、分からないけど市内に戻ってきそうだなと、長期的なことを考えて、教育活動もしていかなければ駄目だなと思っています。高大連携で、僕は高校にも模擬授業を何件も行ってきます。そのときに驚くのが、研究員は、一生懸命教育していますと言うんですが、ちょっと外れると、世の中のことをまったく知らないということです。そういう生徒がたくさんいます。これは任せてられないということで、高校生向けに公開講座をやります。</p> <p>それを江田島市内でやろうといったとき、どういうことが起こるかという、市町との連携があるので、連携の問題、あとはどのくらいの人に来てくれるか、そういう調査もしなければいけないということです。そういうお互いに大学、必ず教育を見ると、大学はけっこういろんなことができるんです。あんなことできないかというのを言っただけであれば検討できます。今もいろいろ、うちの予算でやっているところもあるので、そういう連携、それは企画振興課を通じて言っていただくことになると思いますが、そういう可能性もあります。何ができるか、大学から何ができるか、答えになっていないと思いますが、魅力のある大都会東京に、自分の子どもを取らせないために、その代わりの案として、近場の地域の大学があります。そういう見方をしていただくと。もちろん、広島大学もありますし、ほかの公立大学も私学もあります。そういった観点で、大学が地域と一緒に、なんかやろうとしている大学がたくさんあります。そういうのと一緒に連携していけば、何かしら変わるんじゃないかと、変わるの、実はうちの学生が、この地域に興味を持ってもらえます。そうすると、いろんなことが、ボランティアに来たり、地域貢献をしたりということもやっています。</p> <p>資料8で地域貢献ポイントを考えられているというのがありましたが、うちの大学、学生証をICカードにしてHIROCA（ヒロカ）のICカードにしたんですね。銀行と一緒にやって、地域に還元するために電子マネーを使い、いろいろ今、検討しているところなんです。そういう地域で何か学生がボランティアしたら、うちの大学がポイントをつけてあげます。ポイントをつけると、それをヒロカポイントに還元するとか、そういうことも検討しています。なかなか予算的な問題もあって、難しいところですが、大学が地域に学生が残っていくような考え方もしています。</p> <p>一通り、皆さんのご意見をちょうだいしたと思いますが、ほかに全般的にご意見がございましたら伺いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それではないようでしたら、以上で協議を終了します。閉会にあたって、事務局から何かございますか。</p>
--------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【平成29年11月14日：江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第5回）要点録】

事務局	<p>本日はお忙しい中、ありがとうございました。</p> <p>今後ですが、本日いただいたご意見をまとめて、各事業所管に流して、来年度になるか、再来年になるか分かりませんが、生かすということで、検討を続けていきたいと思 います。</p> <p>また、この会議は毎年検証する仕組みで考えていますので、人事異動もあるかもしれ ませんが、またお声かけさせていただきますので、その際はお集まりいただければ幸い です。事務局からは以上です。</p>
座長	<p>5 閉会</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会します。あり がとうございました。</p> <p style="text-align: right;">（終了）</p>